

2008年度 出版助成図書



D.H.ロレンス書簡集 II 1910/7~1911

原書名：THE CAMBRIDGE EDITION OF WORKS AND LETTERS OF
D.H.LAWRENCE (Lawrence,D.H.;Boulton,James T.)

吉村 宏一／杉山 泰 ほか編訳

松柏社 (2008/12/25 出版)

B6判／530頁

ISBN 9784775401569

¥4,000 (税別)

<目次>

書簡

フレデリック・アトキンスンへの書簡／エイドリアン・ベリントンへの書簡／ブラウベント看護婦への書簡／ルイーザ・バロウズへの書簡／ジェシー・チェインバズへの書簡／ガートルード・クーパーへの書簡／ヘレン・コークへの書簡／グレイス・クローフォードへの書簡／エドワード・ガーネットへの書簡／メイ・ホルブルックへの書簡／サリー・ホプキンへの書簡／ウィリアム・ホプキンへの書簡／ヴァイオレット・ハントへの書簡／エイダ・ロレンスへの書簡／アーサー・マクラウドへの書簡／シドニー・ポーリングへの書簡／ロバート・リード牧師への書簡／マーティン・セッカーへの書簡／レイチェル・アナンド・テイラーへの書簡／モード・ヴィリアーズ＝スチュアートへの書簡

解題「愛と性に苦悩する二五歳のD・H・ロレンス」



京都橘大学女性歴史文化研究所叢書
母と娘の歴史文化学—再生産される「性」

田端 泰子／河原 和枝／野村 幸一郎 編著

白地社（2009/03/30 出版）

B6判／213頁

ISBN 9784893592514

¥2,500（税別）

<目次>

第1部 再生産される「性」

第1章 再生産される中世の女性—正室・側室・後家尼の権限と役割

第2章 『いざよひ物語』と女訓書—阿仏尼をモデルにした浄瑠璃

第3章 師系の文学における母と娘—俳人橋本多佳子と橋本美代子

第4章 美醜の尺度はどのように伝えられるのか—トニ・モリスンの『青い目がほしい』

第2部 抑圧する母／反抗する娘

第1章 縛る母、逃げる娘—前近代中国から近代へ

第2章 恋愛結婚をめぐる母と娘の背馳—有島武郎『或る女』

第3章 焼け跡のシングルマザー—太宰治『斜陽』

第4章 模図かずおにおける母と娘



格差とイデオロギー

碓井 敏正 著

大月書店 (2008/12/12 出版)

B6 判/227 頁

ISBN 9784272430789

¥2,400 (税別)

<目次>

第1部 格差とイデオロギー

第1章 格差と国民国家、ナショナリズム

第2章 格差と社会意識—フリーターはなぜ右傾化するのか

第3章 格差と社会的関係性—最近の貧困・格差問題が近代人権概念に提起するもの

第2部 格差の現実と本質

第4章 格差と貧困の何が問題なのか

第5章 格差と教育費

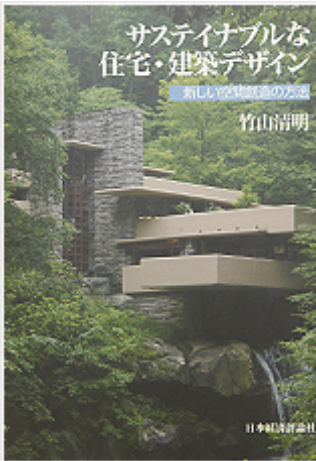
第6章 格差と健康—近藤克則著『健康格差社会』をとおして格差問題を考える

第3部 グローバル格差とその是正

第7章 グローバルな正義の可能性と限界

第8章 グローバルな配分問題への人権論的アプローチ

第9章 格差と能力主義の哲学—格差はどこまで許されるか



サステイナブルな住宅・建築デザインー新しい空間創造の方法

竹山 清明 著

日本経済評論社（2009/02/25 出版）

A5 判／270 頁

ISBN 9784818820425

¥3,200（税別）

<目次>

- 1 スクラップ&ビルドを繰り返すわが国の都市・建築づくり
- 2 現代建築とは何か
- 3 住宅・建築とそのデザインの本質的な役割
- 4 スクラップ&ビルドを乗り越える生活空間づくりを探る
- 5 市民による街並みデザインが可能になった
- 6 これからの日本的な住宅建築様式を考える
- 7 優れた事例に学ぶ



文化とまちづくり叢書 文化政策と臨地まちづくり

織田 直文 編著

水曜社 (2009/04/01 出版)

A5 判/274 頁

ISBN 9784880652184

¥2,700 (税別)

<目次>

序章 文化政策とまちづくり

第1章 まちづくり型図書館の可能性－滋賀県東近江市立永源寺図書館の取組から

第2章 民間活力による市街地再生－大阪市中央区・空堀地区における長屋再生の取組から

第3章 歴史的商店街の価値の創造－京都市伏見区・伏見大手筋商店街の取組から

第4章 まちづくりの溜り場の意義－京都市上京区・出町商店街の取組から

第5章 伝統産業と生産地の再生－京都市山科区における清水焼団地の事例分析

第6章 伝統的な祭りと地域コミュニティ－青森県・ねぶた祭りにおける地域と観光

第7章 キャラクター活用によるまちづくり－全国各地の事例分析から

第8章 臨地まちづくりによる教育実践－京都橘大学の取組

第9章 地域づくりコーディネーター論－全国の事例分析から

終章 文化政策とまちづくりの到達点と課題



読み解き源氏物語－桐壺巻の光と影

甲斐 睦朗 著

明治書院（2009/03/30 出版）

A5 判／240 頁

ISBN 9784625644023

¥1,800（税別）

<目次>

- 【一】 帝の愛を独占する更衣の紹介
- 【二】 帝の寵愛ぶり
- 【三】 更衣の健気さ
- 【四】 更衣の両親の願い
- 【五】 皇子誕生、帝寵愛する
- 【六】 第一皇子の母女御の疑い
- 【七】 桐壺の局の更衣
- 【八】 盛大な御袴着の儀式
- 【九】 更衣危篤に陥る
- 【一〇】 更衣の病に帝苦悩
- 【一一】 帝と更衣の永久の別れ
- 【一二】 更衣の逝去
- 【一三】 無心の皇子
- 【一四】 悲痛な母北の方
- 【一五】 三位の位の追贈
- 【一六】 帝、更衣を恋いわびる
- 【一七】 台風一過、涼しい夕暮れ
- 【一八】 鞆負命婦、母北の方を弔問
- 【一九】 母北の方に対面
- 【二〇】 帝の伝言と手紙

- 【二一】 母北の方悲痛な思い
- 【二二】 闇に沈む母北の方
- 【二三】 悲観にくれる帝
- 【二四】 辞去時の歌の贈答
- 【二五】 北の方参内にまどう
- 【二六】 命婦、帰参して奏上
- 【二七】 北の方への慰め
- 【二八】 更衣への追憶に沈む
- 【二九】 弘徽殿の女御、宴を催す
- 【三〇】 更衣への鎮魂歌
- 【三一】 若宮帰参
- 【三二】 祖母北の方亡くなる
- 【三三】 若宮の秀でた資質
- 【三四】 高麗人、若宮の将来を予言
- 【三五】 高麗人、若宮の詩に驚喜
- 【三六】 若宮に源氏姓を付与
- 【三七】 桐壺更衣に似た女性
- 【三八】 先帝の四の宮の入内
- 【三九】 源氏の君、藤壺の宮にあこがれる
- 【四〇】 源氏、藤壺並び称される
- 【四一】 源氏の君、元服
- 【四二】 帝、元服の儀式に落涙
- 【四三】 成人の装いで美しさ加わる
- 【四四】 左大臣の愛娘
- 【四五】 帝、愛娘を問う
- 【四六】 源氏、左大臣邸で結婚
- 【四七】 左大臣の政治力強まる
- 【四八】 類なき藤壺の宮
- 【四九】 藤壺の宮への慕情高まる
- 【五〇】 源氏の君、淑景舎住まいを好む
- 【まとめ】 源氏物語・桐壺巻を読んで



文化の社会学—記憶・メディア・身体

大野 道邦／小川 伸彦 編

文理閣（2009/03/30 出版）

A5 判／286,15 頁

ISBN 9784892595868

¥3,000（税別）

<目次>

第一部 伝統と記憶としての文化

第一章 能—記憶と文化的価値

第二章 歌舞伎—その諸相と構造

第三章 宝物・国宝・文化財—モノと象徴のポリティクス／ポエティクス

第四章 死者と記憶—震災を想起させる時間、空間、そして映像について

第二部 社会のなかの文化

第五章 「大衆の道徳」の可能性—M・モースの道徳論とハイブリッドモダンへの視点

第六章 現代組織における文化とシンボル

第七章 文化の境界—北アイルランドにおける文化理解の可能性をめぐって

第三部 市場のなかの文化

第八章 消費社会と消費文化—「女の系譜」のゆくえ

第九章 マンガ生産の文化—社会的関係としてのマンガ生産が孕む「過剰さ」の意味

第一〇章 ユースカルチャー ファーストフード マンガ—ロシアの文化事情

第四部 身体と文化

第一章 「介助者は、障害者の手足」という思想－身体社会学からの一試論

第二章 現代社会における自己形成と身体－ゴッフマンのフレーム論をもとに

第三章 女性のホモソーシャルな欲望の行方－二次創作「やおい」についての一考察